

あへのあそみおきな もろこしつか 唐に遣はされし時に、母に
たてまつ ひべつ 奉る悲別の歌一首

四二四七番

あまくも 天雲の そきへの極み 我が思へる 君に別れむ
ひちか 日近くなりぬ

七月十七日を以て、少納言に遷任す。よりにて

ひべつ 悲別の歌を作り、朝集使掾久米朝臣広繩の
むらつみおく のこ 館に贈り貽す二首

四二四八番

あらたまの 年の緒長く 相見てし その心引き
わす 忘らえめやも

四二四九番

いはせの 石瀬野に 秋萩しのぎ 馬並めて 初鳥狩だに
わか せずや別れむ